2019 研究発表会当日資料

第 6 学年社会科

単元名「国力の充実をめざす日本と国際社会」

全１１時間

国力ってどんな力？　国の力だよ。

そういうことじゃなくって・・・



社会って勉強して何の役にたつのですか？

それが分かるために勉強するのよ

みんなで授業するのは、考える課題の方がいい！

分かりたい課題は一人でもできることがある

実施時間：2019 年 10 月 17 日～

研究発表会：2019 年 11 月 3 日（土）9：10～9：55

和歌山大学教育学部附属小学校

単元を通しての個人研究テーマ

「教科書歴史学習と子どもの探究力の育成」

探究的な学び(主体・活用・協働・省察）に近づく授業研究

① 単元を貫く学習問題づくり（主体）

方法；題名読み（授業のしかけ①）

② 考える・話し合う時間の確保（主体・協働）

方法：反転授業的学習

※家庭学習で該当ページを音読し，

一定の内容把握とグラフの作成等を行う。

③ 知識の共有を図る（活用・省察）

方法：グラフ作成（授業のしかけ②），ペンリレー

④ 知識の再構成を図る（主体・活用・省察）

方法：4 コマ漫画（授業のしかけ②番外編）

これら①から④を実現するための方法を，授業のしかけとして設定し，

研究を進める。

「カリキュラム・デザイン」

本校では知識の活用・発揮により各教科の課題設定や情報収集のプロセスの充実につながると考えているが，年間通して計画的に歴史学習と他教科の内容をつなぐことは教材の大幅な変更が必要になるという難しさがある。しかし，他教科で学んだ知識が活用・発揮される場面を計画的に仕組まなくとも年間通して活用・発揮できる知識がある。例えば，第 6 学年国語科「学級討論会をしよう」で身に付けた討論の方法知は，社会科で取り入れることにより社会科の内容理解や考えを深めることにつながる。教師が意図的に「討論にしようか」(促進)と促したり，子どもも「討論しよう」と言い出したりすること(育成)が互いの探究のプロセスが充実されると考える。

まずは，教師が各教科・領域のどこで使えるのかを意識することがカリキュラム・デザインカリキュラム・マネジメントの本来の設定意図だと考える。これを意識し，今後も子どもが自ら知識を活用・発揮できる場面を設定していきたいと思う。

授業のしかけ①　「題名読み」

主体的に学習に取り組むためには，よく子どもに疑問をもたせ，それを追究させていくことが望ましいと言われている。子どもに疑問をもたせるにはどうしたらよいのか。そして，単元を貫く学習問題とするにはどうすればよいか。

そこで，単元名から考えたことを表出し，単元を貫いた課題を設定する活動を取り入れた。まず，単元名だけを板書し，そこから思ったことを何でもよいので書かせていく。それを全体で共有し，単元を通して考える学習問題（課題）を設定することにした。

【授業の実際】

第１時

本時の目標	学習の見通しをもち，単元の課題を設定することができる。
評　価	単元名をもとに，課題を設定することができている。【主体的に学ぶ意欲】

<学習活動>

① 単元名から思いついたことをできるだけ書き出す。

始めは，何を書いていいのか，何も浮かばない児童が半数程度いた。「近くの子と話してごらん」と声掛けしたことで，話が膨らみ始めたので，「今話したことを書くんだよ。」と伝え，時間をとった。

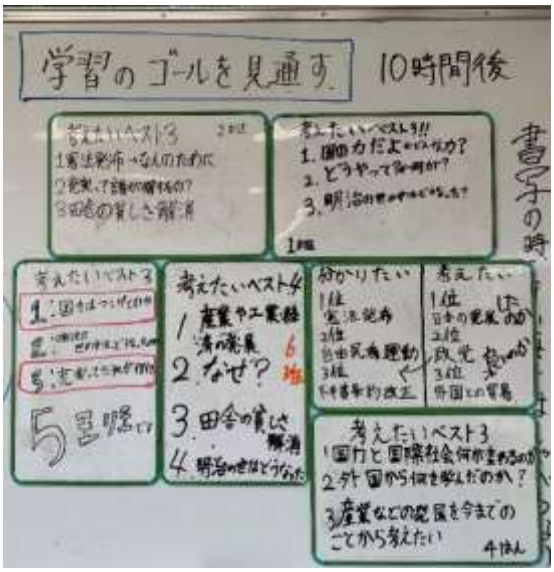
② 白板に板書し，つながりを考えながら，付け足していく。

③ みんなで考えたいことベスト３をグループで考える。

④ 最後まで残りそうな課題を予想し，単元を通してこの課題について話し合うことをつかむ。

⑤ 学習を振り返る。





授業のしかけ② 「図や絵に表す」

歴史好きな子どもの多くは，歴史漫画を通して歴史の面白さに気付く。そして歴史にはまり，人物や出来事をその時代の人物，例えば源義経になりきり，義経の目や耳，感情に同感し自身も感情移入しながら歴史的な史実を知っていく。

一方，歴史が嫌いな子どもは歴史漫画を読まない。または読んでいるからこそ歴史学習が楽しくないのだ。

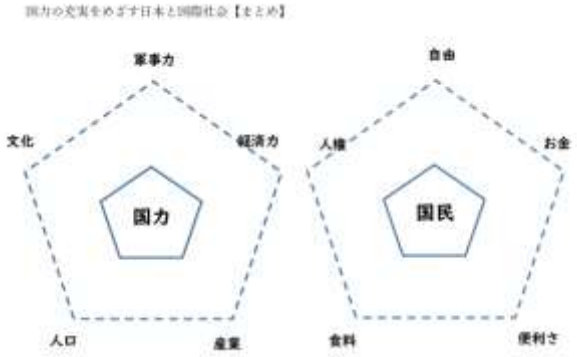


それは，教科書は「説明文」だからである。国語の学習を思い出してみてほしい。説明文の学習を始める時，どうやって興味を惹きつけようかと考えたことはないだろうか。一方，導入を考えなくとも物語の学習の方が子どもたちは意欲的に読んでいるはずである。単純にこれは「お話」が面白いからである。読書をしている人（大人も含めて）の大半は種類こそ違えど，物語を読んでいるはずである。歴史漫画は物語文である。この文章形態の違いが好きか嫌いかを分ける大きな要因の一つではないのだろうか。

そこで，説明文に興味を持たせ，内容を理解させる方法を考えた。①物語風にして授業者が語ることで歴史的な事象に触れたり，感情移入したりして人物になりきらせる。②身近にある資料を調べたり探索に行ったりすることで，説明文の内容に近いことを，体験する。③劇化することで①と同様に人物になりきったり，生活の様子を感じたりする。④図や絵に表すことで，事象を可視化する。

今回，取り入れたのは④である。なぜ④の図や絵に表すことにしたのか。理由は３つある。

1．　テキスト（連続テキストや非連続テキスト）に合う図や絵を考える活動が知識を再構成し，活用することにつながり，それが身に付けるべき内容の習得になる。



2．　ある事象について全員が図に表す活動を行うことにより，主観は「違い」となって他者の目に映る。そうすることで，「なぜあの子は○○が△△なのだろう」という疑問が生まれ，それにより対話が生まれる。その対話が知識の活用につながり，互いの価値観に気付くことにより，自分の考えを広げたり深めたりすることにつながる。

3．　誰でもできる。どこでもできる。

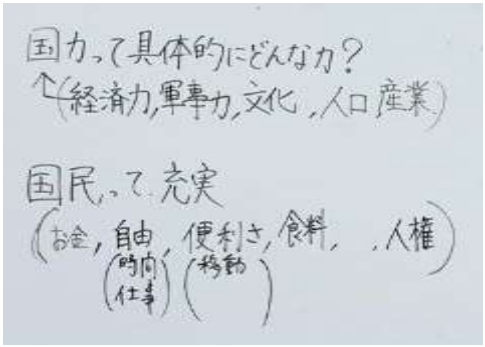
以上の理由から，今回の歴史学習では④を主軸に置いた活動を実施した。ただ，①から④の中で一番面白くないのが④であると感じている。なぜなら，物語のようになりきって感じることはできないため，当事者としての感情がわきにくい。この改善には，発問等により，気持ちを考える時間をとることが必要になる。

【授業の実際】

第 2 時

本時の目標	西南戦争や演説会の絵図を手がかりに，板垣退助らのはたらきから国民の運動意識が高まったことを捉えることができる。
評　価	国会開設に備えて政党を作った板垣退助らのはたらきや政府の対応を理解している。【知識・技能】

<学習活動>



① 国力を定義する。

前時のふりかえり「国力ってなんの力？・・・」を映し，

「国力って何かな？5 つ挙げましょう」と発問した。

子どもたちからは，「お金」「国民への権力」などがすぐに上がった。

その後少し話合わせると，「戦力」「文明」「産業」などが出てきたので，

子どもが持ってきた辞書にて確認し，右のような 5 つで定義した。

② 国民の幸福（充実）度を定義する。

① と同じように前時のふりかえり 2 つ「国だけが力を付けたと思う」と「国力の充実って国民のことだと

思う」を比較し，国民の充実だとすると，何が充実すること幸せなのかを考えさせ，出た意見を 5 つにまとめ定義した。

③ これからの学習では，内容をもとにそれぞれのグラフを作成していくことを理解する。

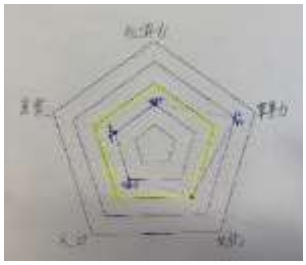
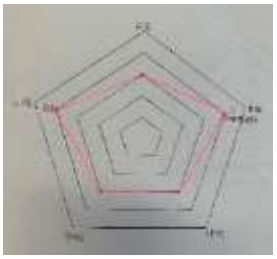
④ P.114，115 の資料や文章をもとに，国としての充実度と国民としての幸せ（充実）度に対するグラフを作成する。（西南戦争・自由民権運動）

※これまでの生活を 3 にして，それを基準として考えていく。

※毎時間，グラフについて考え，日付を書いて記録する。

理由はノートに書き留める。

※グラフにキーワードをメモしておく。

⑤ 学習を振り返る。

「番外編」

絵に表す活動として時代の終わりに 4 コマ漫画を作成している。これは子どもたちも何を題材にしようか時間がかかり悩んでいるが，できたものを見て回る光景はとても微笑ましい。そして読んでいてクスリと笑えるものもある。

















授業記録

第３時

本時の目標	自由民権運動の高まりから，明治政府は憲法を制定し，立憲政治を確立したが，国民の政治参加の面では不十分であったことを捉えることができる。
評　価	国会開設に備えて政党を作った板垣退助らのはたらきや政府の対応を理解している。【知識・技能】

<学習活動>

① 前時のふりかえりから，国の対応と国民の人権と自由について課題をもつ。

② 第１時で考えた課題の中で解決できることを見つける。

ホワイトボードに第１時で書いた課題を貼り，どれか解決できそうなものはあるかを問うた。

子どもたちからは「憲法は何のために発布されたのか」という課題が選ばれた。それについてもグラフを作成しながら考えるように指示し，グループ活動を行った。

③ 課題の解決を見通しながら p.116～p.117 をもとに個人でグラフを作成する。

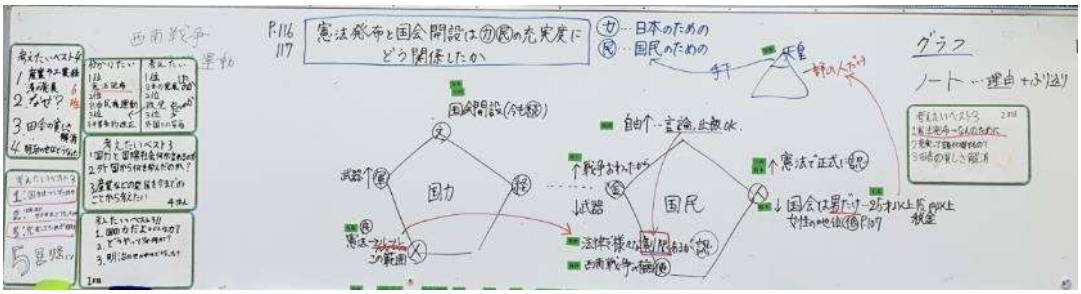
④ グループで話し合い，考えを深める。

憲法によって，政治の仕組みが新しくなり，正式に権利と自由が認められたと考える子どもと，正式に国民は天皇の手下ということが決まったと考える子どもの意見が出たことによって，少し空気がとまり，子どもたちはそれについて考える時間が流れた。子どもたちの話し合いは活発に行われてるが，内容に深まりが感じられないこともしばしばある。

本時においても，憲法の規定ができたことを肯定する側と否定する側に分かれただけで，討論にまでは発展しなか

った。ここで話合わせ，憲法の制定について深めることができれば更に国力の充実と国民の幸福度について深めるこ

とができたと考える。



⑤ 本時のグラフを作成する。

⑥ 学習を振り返る。

【子どもの振り返り】

A 国力の充実も国民の幸福度もどんどんよくなっている。

B 一見，両方よくなっているように見えるけど，国の役人や天皇だけが得をしているような気がする。

C 憲法や国会ができて，国民は本当によかったのかな。

第 4 時

本時の目標	ノルマントン号事件から不平等な条約の改正に至る経緯を陸奥宗光や小村寿太郎の功績を考えながら年表をもとに条約改正までに時間がかかったことを捉えることができる。
評　価	不平等な条約がどのようにして改正されたかを理解している。【知識・技能】

<学習活動>

① 教科書 p.118，119 で起こった出来事について調べたことをもとに，感じたことを表出する。

始めは，調べた事実だけを，羅列的に発言していたが，「ノルマントン号事件について国民はどう感じてた？」と問うと，「おかしい」「もうちょっと重い刑でもよかった」「ほかの人からしたら自分やったかもしれない」などの国民の立場の意見がでた。

条約改正について日本は声を挙げ，条約を改正したが朝鮮には不平等な条約を結ばせていたことに注目し，「なぜ挑戦に不平等な条約を結ばせたのか」について話が進んだ。欧米諸国に対して日本が不利だったことに触れ，経済力をあげるため。日本を立て直すため。という意見がでた。



② グラフを作成する。

③ 学習を振り返る。

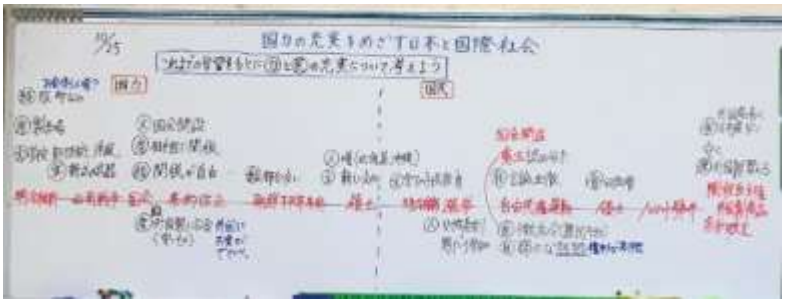
【子どもの振り返り】

・治外法権は改正しないと 25 人死んで軽い罪だったら日本人何人殺されてもそうなるし人口が少なくなる。関税のせいで日本貧乏になる。それを改正できたから経済力アップ↑

第 5 時

本時の目標	これまでの学習内容をもとに国力の充実と国民の幸福度について考えをもつことができる。
評　価	西南戦争から不平等条約の改正までの出来事から，国力の充実と国民の幸福度について自分の考えをもっている。【思考・判断・表現】

<学習活動>



① これまでのグラフを振り返る。

② 国力の充実度と国民の幸福度について今の状態をグループでグラフに表す。

③ グラフをもとに，考えたい課題について話し合う。

このグラフをもとに，ということを授業者自身が忘れてしまい，単にグループで話し合ったことを出し合うことを求めてしまったことで，これまでの活発だった流れが急に途切れてしまった。

④ 国力と国民の今の状態について，自分の考えをまとめる。

【子どものまとめ】

・明治の世は，外国と交流する時間が増えたのかなと思いました。朝鮮との不平等条約や条約改正など。だからちょっと充実したかな。

・国力はついたと思うけど微妙な感じ。得するのは国のえらいさん？多分一般の人はあまり得していないかも。

・やっぱりみんなの意見を聴いていると，国民の扱い方は悪くなったのかなと思った。「自由」と「人権」は同じなのかな。

【授業を終えて】

〇グループ活動の中ではいつものように，活発にグラフの作成について話が行われていた。それぞれのグループでグラフ作成までの過程は違うが，自分がどう考えるかという理由を話しながら，国力の充実度と国民の幸福度について話ができていた。

△グループ活動後の全体交流は各グループからの発表はあるものの，反応は薄く，誰も話そうとしない雰囲気になった。これは，授業者が適切な課題（ゴール）を示さなかったからだと考えられる。グループ活動での課題は明確で話しやすかったが，「では，話し合ったことを出し合いましょう。」という指示であったので，全体では何をどう話してよいのか不明確になってしまった。ここで授業者は「では，話し合ったことをもとに，考えたいことベスト３から課題を一つ選んでそれについて考えましょう。」と指示すべきであった。猛省である。

第６時

本時の目標	日清戦争や日露戦争によって，国際的な地位は高まったが，国民の生活にしわ寄せが行ったことを理解する。
評　価	日本の国際的地位が上がったことを理解している。【知識・技能】

<学習活動>

① 年表を開き，これまで学習したことはどの部分に当たるのか振り返る。

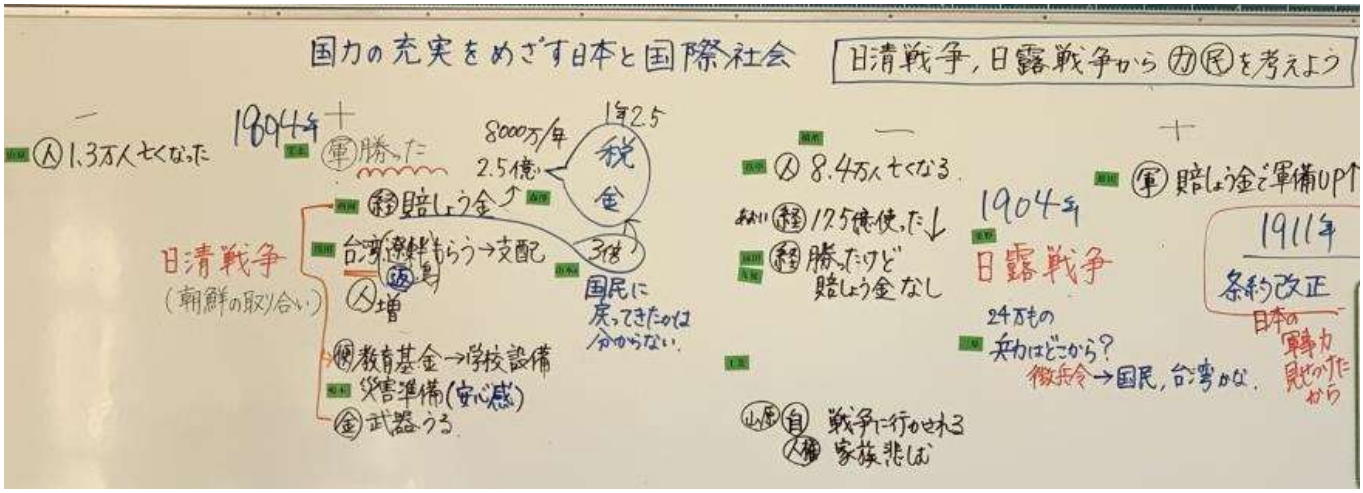
② 年表を見ながら本時の出来事を確認する。

確認すると，「え！条約改正する前のことやったんか！」というつぶやきがあった。教科書ではトピックでページが構成されているため，年表をみて確認することが必要であると感じた。

③ 本時の出来事で「国力は充実したのか」「誰のためになったのか」について，意見を述べ合う。

④ 政府の立場や国民の立場になって２つの戦争に対する考えを深める。

※時間がなく，できなかった。



⑤ 学習の振り返りをする。

【子どものふりかえり】

・僕は，国力の充実で国(日本)が得したと思います。理由は，充実したから戦争に勝てて，条約改正できたと思うからです。

・日露戦争では賠償金がもらえなかった。国はパニック！

・この２つの戦争は国のためだと思います。なぜかと言うと勝つと日本が得するからです。でも戦争で解決するんじゃなくて話し合いをしたらいいと思います。だって戦争をしたら人が死ぬし，軍の差があり，不公平だと思

うからです。なぜその時代は戦争で決めたのかな？

・よくばるのはよくない！

第７時

本時の目標	韓国併合前後に日本がとった政策やそれに対する抵抗運動を調べ，朝鮮の人々の思いを理解する。
評　価	日本の植民地政策を調べることを通して，朝鮮の人々の思いについて理解している。【知識・技能】

<学習活動>

① 年表を見ながら本時の出来事を確認する。

「今日の出来事は年表のどこか近くの人と確認しましょう。」

② 本時の出来事について，ペンリレーを行う。

③ 日本の政策について考えをもつ。

「ホワイトボードをみて，思ったことはないですか」と問うと，

A「これまでは，欧米に不平等条約とか結ばされていたけれど，朝鮮に不平等条約結ばせたりして，日本の意志が出てきたと思う。」

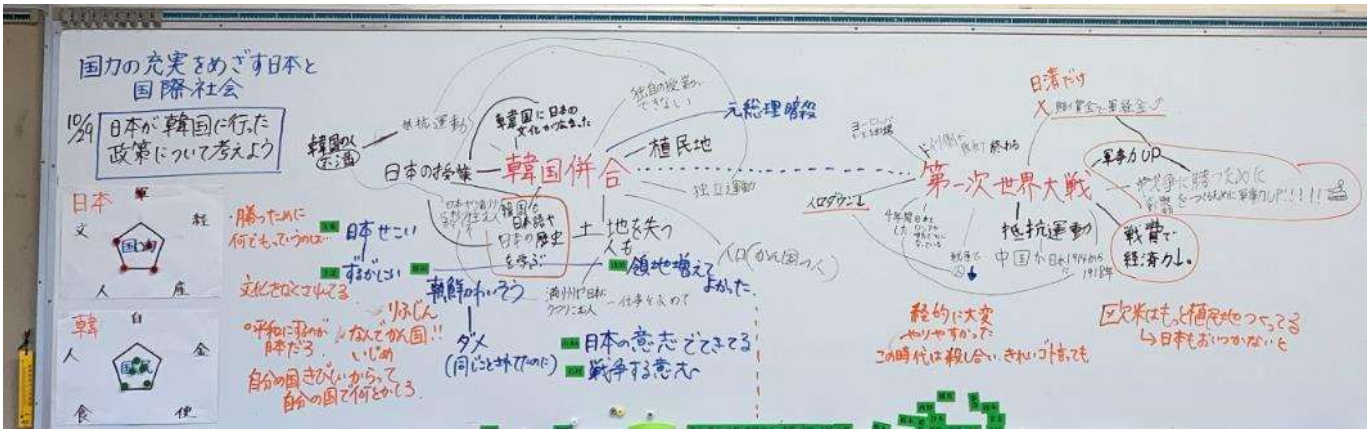
B「領地が増えてきて，よかった。」

C「朝鮮かわいそうや。」

D「日本せこい」

E「日本もされていたことと同じことしてるのはあかん。」

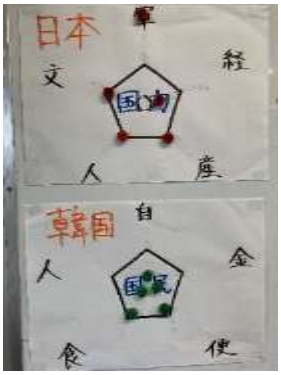
など，大きく日本側を肯定する意見と否定する意見が出たので，「日本側の意見に賛成か」「韓国側の意見に賛成か」と問い，立場を決め 5 分程度の討論を行った。日本側 12 人，韓国側 10 人，フォロアー4 人で始まった。



※オレンジが討論の内容

④ 「国力はついたのか」「誰のためになったのか」について考える。

最終的に，今日の話し合いの中で，日本の国力は軍事力が上がった。人口も増えたという意見が多く出た。国民の幸福度については，日本国民ではなく，韓国国民について話したため，韓国国民の幸福度についてである。すべての項目で下がったという結論に至った。



⑤ 学習の振り返りをする。

振り返りを書いているときに,「韓国併合をする必要はあったのかな」とつぶやいてみると，少し空気が変わり，結論は出さなかったが自分なりに考えている様子がうかがえた。

第８時

本時の目標	日清・日露戦争時の国内の産業や暮らしの様子，世界で活躍した日本人などについて調べ，国力の充実と関わりを理解する。
評　価	日本の近代工業が発達は多くの人々の苦労や努力によって支えられ，このころ世界で活躍する日本人が表れたことを理解している。【知識・技能】

<学習活動>

① 年表を見ながら本時の確認をする。

② 国力と国民の充実グラフのどこに焦点があたっているのか確認する。

子どもたちと一緒に確認し，国力では「産業」「軍事力」「経済力」「文化」の変化が大きくなり，国民の幸福度ではどの項目も少し下がる結果となった。変化が大きかった国力の充実の方をめあてとした。

③ 変化のあった項目についての事象を確認する。（ペンリレー※１）

子どもたちはペンリレーになると，発言に自信がない子も意欲的に参加している。また，ほかにはないのかを考えたり，つながりを考えたりしながら，ホワイトボードの中での対話がうかがえる。



※１　調べてきたことをキーワードなどでつないでいく。隣接する附属中学校の社会科において行われている実践の一つ。



④　政府，働く人や町の人，外国政府の立場になり話し合う。

それぞれの立場に立たせて考えることをさせたが，すべての立場にたって考える時間を確保することができなかった。

⑤　国力の充実について考える。

⑥　学習をふりかえる。

・国力の充実と言いながら世界の中で強くなることを考えている感じ。国民のために何かしてほしい。

・日本はすごいよ！強いんだよ！ということを見せつけるためにみんなが骨をおって働いていた。国力の充実は日本人が

得すると思っていたけど，女性はあまり得しないので国の政府，貿易のためだと思った。政府はあまり国民のことを気

遣わないで行動している。

・政府は武器が増えて戦いやすくなった。外国の政府から日本は強くて韓国はかわいそうと思われていると思う。

・日本は自己中？工女だけに働かせ解いて自分はなにもせずに世界一になって喜んでいるから。

・日本は産業，経済を上げるために女性を働かせたりしたんだと思います。でも，工場を建てたところで公害が発生した

ので，むりしない程度に働かせてあげてほしいと思いました。津田梅子さんは国民(女の中心)にとって「神」だったと思います。

・すべてつながってて，国力は強くなったけど，国民はもうめちゃくちゃになってる。戦争に勝つために国力の充実をめざしていると思う。

第 9 時

本時の目標	当時の時代背景を踏まえ人々が自由と権利を求めて立ち上がったことを理解する。
評　価	当時の時代背景を踏まえて人々が自由と権利を求めて立ち上がったことを理解している。【知識・技能】

<学習活動>

① 国力と国民の充実グラフを見ながら，どこに焦点が当たるのかを確認する。

② 国民の生活状況についてペンリレーにより出来事を確認する。

ここで，「政治や社会のしくみを変えようとする運動を厳しくする法律」について疑問が出たので，治安維持法についての資料を渡した。

③ 様々な立場に立って，考えを出し話し合う。

様々な立場に立って考えを出し合うことで，これまでの知識が活用・発揮される場面が多くなった。

④ 貧困は解消したのか和歌山県の地方ではどうだったのか本で調べる。

ここでは，和歌山県の 100 年を記録した図書で調べながら，「和歌山全然進んでない！」「人力車ある！」「水平社運動て書いてる」など見つけたことをつぶやき共有していた。そこで，「全国水平社運動を創設した人が和歌山にいたんだよ」というと，クラスがどよめき，「どこの人？」など興味を示した。また，紀の川市に住居跡があるという話をすると「行ってみたい！」という言葉がわき，人権学習の一環として校外学習を計画

に入れた。



⑤ 学習をふりかえる。

・このころの正解はまだ自分勝手だったのかなと感じました。当時の人々の気持ちは僕たちにはわからないけど，政府の役人に言いたいことはたくさんあるけど口に出したり運動などするとつかまるという威圧的な政治をされてすごくいやな思いをしたかと思います。

・いろんな人の活躍が今女性の人も選挙がきでたりするから，なんでだめなのか分からない。

・田舎の貧しさはいつ解消するの？

第 10 時

本時の目標	国力の充実をめざす日本と国際社会について自分の考えをまとめる。
評　価	当時の時代背景を踏まえて人々が自由と権利を求めて立ち上がったことを理解している。【思考・判断・表現】

<学習活動>



① 国力はついたのか。誰のための充実だったのかについてグループで考えをまとめる。

② まとめたものについて，考えたことを話し合う。

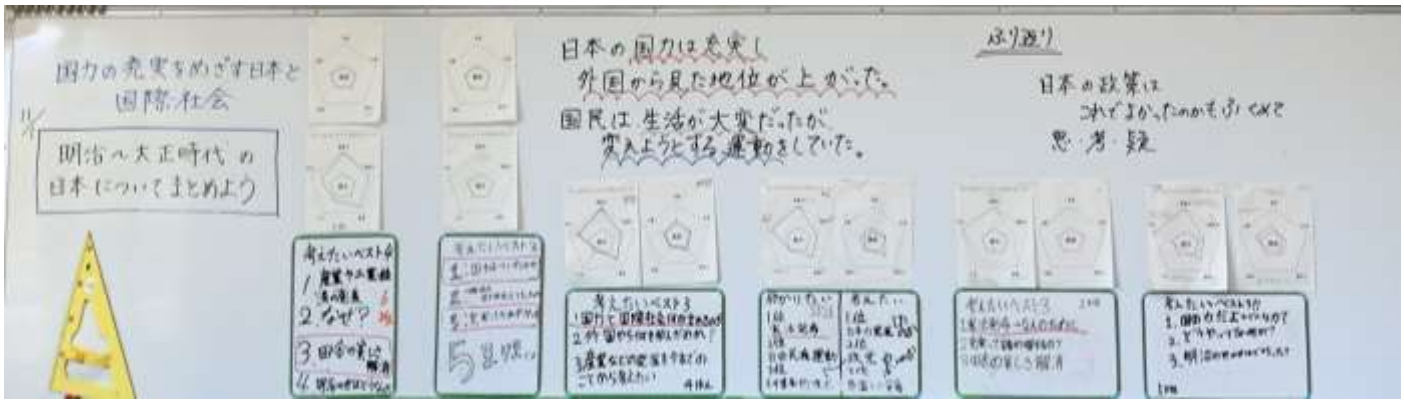
各グループで発表していたが，時間がかかるので，3 グループしたところで残りの班のグラフについては，多と比べて気になったことを質問させるようにした。

③ 単元のまとめをする。

第 1 時で設定した「国力はついたのか」や「だれのための充実か」また各グループで出し合った課題について子どもたちからは「わかってきたー」など，少し疑問の解消につながったと感じるつぶやきがでていた。

「国力の充実をめざす日本と国際社会」というテーマについては板書のように子どもたちとまとめた。

④ 学習をふりかえる。



・日本はこれでよかったと思います。なぜなら日本は国力の充実をめざしていたからです。結局日本は充実したからよいと思いました。

・この政策で良い思いをしたのはほとんど日本で，国民はあんまりよい思いをしなかった。

・外国から見て地位が上がったのはすごいと思いました。

・日本の政府は良かったが，国民はよくながった。国民は良くなかったが，それでも自分たちで運動していることがすごい。

・日本の政策は国力を高めるために良い働きをしたと思う。でも，国民に対して厳しいものだったので，国力と国民の両方の充実はできなかったと考えた。